

平成29年度第8回登別市教育委員会会議録

日 時 平成29年11月30日（木）午後4時30分

場 所 鷺別小学校

第8回 教育委員会議事日程

- 1 日 時 平成29年11月30日（木）午後4時30分
- 2 場 所 鷺別小学校
- 3 議 案 報告第8号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について
議案第10号 登別市立学校管理規則の一部改正について
議案第11号 登別市立学校運営協議会設置要綱の全部改正について
議案第12号 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載の同意について
- 4 情報提供 1. 教育ふれあいウイーク実施状況
2. 登別市キャリア教育懇談会の報告について
3. 登別市教育フォーラムの報告について
4. 登別市幼保小中連携協議会の取り組みについて
5. 平成28年度生涯学習事業 実績と点検評価について

5 出席者

(教育委員会5名)

教育長	武 田	博
委員	垣 内	登紀子
委員	森 口	達
委員	赤 井	秀 輝
委員	堅 田	裕

(事務局9名)

教育部長	佐 藤 史 彦
教育部参与	野 崎 均
教育部次長	橋 場 太
総務部グループ建築主幹	出 口 利 美
学校教育グループ総括主幹	田 中 道 郎
学校教育グループ学務主幹	小野島 晶
社会教育グループ総括主幹	安 部 直 也
学校給食センター長	小 森 仁
図書館長	綿 貫 亨

○武田教育長　それでは、本日の委員会は、5名全員が出席されておりますので、有効に成立していることをご報告します。これより平成29年度第8回教育委員会を開催します。本日の議事は、報告1件、議案3件になります。それでは、早速議事に入ります。報告第8号「市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について」事務局から説明をお願いします。

○橋場教育部次長　はい。議案書1ページをご覧ください。報告第8号は、平成29年第4回市議会定例会の提出議案であります平成29年度一般会計補正予算（第4号）について、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条の規程に基づき臨時代理を行いましたので、その内容を報告し承認を求めるものであります。

5ページをご覧ください。小学校費の歳出になりますが、補正の要因は2点ありまして、1つは要保護・準要保護就学援助費の入学準備金が平成29年度から2万4700円から4万6000円に引き上げられたこと。2つにはこれまで入学準備金は入学後の支給になっていましたが、道内の動きや文科省においても要保護者を対象とした「要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱」を改正し、入学する年度の開始前に支給した入学準備金も国庫補助の対象としたこと。これらの動きを受けて本市においても来年度の入学者から就学前に支給することとしたので、この2つの要因を合わせて445万1千円を補正することとしました。

次に6ページになります。中学校費になりますが小学校費と同様の理由により382万2千円の補正となっています。

次に7ページになります。この事業は西いぶり定住自立圏文化事業になります。3市持ち回りで事業を行っているもので、昨年度本市で文楽を行なった事業になります。今年度は室蘭市で札幌のコンサートを行っております。財源については3市がそれぞれ100万円の負担金を支払い、その予算を基に事業を行っておりますが、4ページにあるように50万円のいきいきふるさと推進事業助成金をいただくことができましたので、その額の補正を行っております。歳出予算には変更はありませんでしたので、7ページの説明では財源振替となっています。これらの予算について、臨時代理を行いましたので、その内容を報告し承認を求めるものであります。以上です。

○武田教育長　ただ今説明がありました報告第8号について、ご質疑ございませんか。

（「ありません」の声あり）

○武田教育長　それでは、報告第8号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○**武田教育長** それでは、報告第8号については承認します。次に、議案第10号「登別市立学校管理規則の一部改正について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○**田中学校教育グループ総括主幹** 議案第10号は、学校管理規則の一部改正になりますが、これは学校運営協議会、いわゆるコミュニティ・スクールに関連するもので、根拠法が一部改正になったことによるものです。資料は9ページから12ページになります。改正理由は2点ありますが10ページをご覧ください。一つはコミュニティ・スクール関係で、これまでの設置者の指定方式によるものが、全校導入を目指した努力規定になったことが一つ、もう一つは土曜授業の2回分の8時間が一日の勤務時間7時間45分を越えるため、これまで一日分に振替できなかったものが4時間と3時間45分の組み合わせで一日分とすることが可能になった関係の改正となります。主な改正内容は「2」のとおりで改正案は11ページに、新旧対照表は12ページに記載のとおりでございます。

また、コミュニティ・スクールについての詳細部分は、次の議案第11号でご説明しますが、詳細を含めて規則で定めていない理由は、国のコミュニティ・スクールの委員は市政全般に関わる重要事項の審議等の委員と同様の責任等を持つ附属機関の委員の位置付けであります。本市としましては学校運営へ気軽に参加・参画していただくため評議員制度時の無償ボランティアを踏襲して、現在は有償ボランティアであります。気軽に参加を促す環境は変えたくないとの狙いから主要部分を規則、詳細部分を要綱で対応することにより、附属機関の委員ではないボランティア形式を維持することを申し添えます。

関連議案でありますので、引き続き議案第11号を説明してもよろしいですか。

○**武田教育長** はい。

○**田中総括主幹** 議案第10号に関連しまして、議案第11号は学校運営協議会設置要綱の全部改正になります。資料は、13ページから18ページになります。

改正理由は14ページになります。規則の一部改正において「努力義務化」を、この要綱においては協議会全般の運営等の詳細を定めております。主なポイントとして、①のコミュニティ・スクールのキーワードである「地域とともにある学校づくり」の文言使用や、②の学校毎の設置の特例、③から⑤及び⑦は委員の定数や任期などの協議会の運用に関して、⑥は人事の要望に関しての関与範囲など、7点を挙げさせてい

いただきました。改正案は15ページから18ページとなります。

なお、施行日の日付は空欄とし規則の公布日と同日と考えておりましたが、総務部総務グループから要綱は教育長の決裁日が適用日になるとの指摘がありましたので、11月1日に遡及して適用させていただきたいと思えます。なお、この訂正による議案第10号への影響はありません。以上、議案2件について、ご審議をよろしく願います。

○武田教育長 それでは議案第10号と第11号の運営協議会の全部改正についても説明をいただきました。根拠としては根拠法令である国の地教行法の改正に伴うものということですので、それを踏まえて全部改正を行なったということですのでございます。議案に従って、10号から進めたいと思えます。10号で何かありませんか。

(「ありません」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第10号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第10号については承認します。次に議案第11号についてご質疑ございませんか。11号は要綱を全面改正ということですのでございまして、第10号の改正に絡んでということですのでございます。

(「ありません」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第11号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第11号については承認します。

次に議案第12号「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載の同意について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○小野島学校教育グループ学務主幹 議案第12号は、平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載についてお諮りするものです。議案書19ページ及び別冊資料をご覧ください。平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査につきましては、12月中に国及び都道府

県の結果が公表される予定です。市町村別結果については、1月上旬以降に公表されることとなっているところではありますが、本市の結果について、道教委から別冊の12・13ページの別添3にあるような資料を「北海道版結果報告書」へ掲載することに対し「同意」を求められましたのでお諮りするものです。国の定めた「実施要領」では、10ページの別添2のとおり26年度から教育委員会や学校が保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことの重要性が明記され、それに基づいて道教委は、市町村教育委員会の同意を得た場合には、市町村別の結果を公表することとし、昨年度は170市町村の調査結果及び分析結果・改善方策を報告書に掲載しました。道教委では、きめ細かく分かりやすい調査結果を示したいとの考えから、来年2月を目処に公表を予定している北海道版結果報告書に、市町村別の状況を明らかにした資料を掲載することから、同意の照会があったものです。

事務局としましては、掲載方法が学校別の結果ではないこと。レーダーチャートによる表示で、どの種目に課題があるのか明確であること。また、他市町村の調査結果や体力向上の取組を合わせて知ることで、今後の当市の取組の参考になると考えられることから、全国学力・学習状況調査の時と同様に、道教委作成資料の市町村別掲載に同意したいと考えております。委員の皆様方のご意見をお伺いします。

○武田教育長 ただいま議案第12号について説明がありました。道が公表する資料に掲載の同意ということでございます。ご質疑ございませんか。

(「ありません」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第12号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○武田教育長 それでは、議案第12号については承認します。

以上で本日の議事は全て終了しましたが、その他、事務局から情報提供などありましたらお願いいたします。情報提供案件はあらかじめ5件が示されていますけども全て説明をしてから質疑・意見交換をしたいと思います。それではどうぞ。

【情報提供案件】

○野崎教育部参与 はじめに教育ふれあいウィークの実施状況になります。情報提供資料を1枚捲ってください。今年度は10月28日と11月11日の土曜日に、

間の土曜日は連休になっておりまして、この2日間を設定して各学校で保護者の方ですとか地域の方々にも呼びかけて学校を公開したというところがございます。ご覧になっていただければお分かりのように今年度も保護者の方が合わせて1,226名、地域の方が122名、合わせて1,348名の方が学校に足を運んでいただいたということになります。この近年の動きを見ますと26年から土曜日を公開しているということから1,000人台のところになっているのですが、若干26年から数字を追っていけば29年が少なくなっているというところも見られますが、幌別西小学校を公開したときはインフルエンザの関係もあって6学級ほど閉鎖していたり、或いは、子ども達の減少というところも考えれば大体いい数字だと思っています。引き続き日常の中でも、或いは、これからも土曜授業を公開する場面もありますので保護者の方ですとか地域の方には引き続き学校に訪れていただけるように呼びかけを継続するように学校にはお願いをしているところがございます。

続きまして、もう1枚捲っていただきますと登別市キャリア教育懇談会というのがあると思います。10月30日に3ページにありますけども日本工学院の加藤校長、登別青嶺高校の井上校長、登別市校長会から会長の安宅校長、事務局長の嶋原校長というメンバーでこの地域ならではのキャリア教育のあり方というのを考える会を設けました。今までやっていなかったのですが、今回日本工学院の加藤校長からのお話もあり、小・中・高とつなげてキャリア教育を考えていく機会というのはますます必要になってくるというのは、教育委員会管轄の枠を超えた部分もあるのですが、このような会を持ってないかということで青嶺高校の校長に相談したところ快く引き受けてくれまして、このような会が実現したということでございます。市からも総務部、観光経済部からも出ていただいて会を設けることができたということでございます。具体的にどのような話になったというところは4ページからご覧になっていただければと思います。4ページのあたりは小学校や中学校、或いは高校でどのような取組をしているかというところを載せてあります。まずその辺りでお互いに知り合うというところから始めております。5ページは、まん中辺りから加藤校長や工学院側からの話をいただいております。まん中辺りに線を引いておりますが、工学院の考え方としては、多くの子ども達に様々な体験をさせたいという思いから、要望にはできるだけ応えるようにしていますというのをいただいております。この言葉を受けまして

6 ページ、例えば小学校の安宅校長の立場では、これからプログラミング教育等も小学校も行なっていくので、そのときには工学院の学生を派遣してもらえたり、或いは、工学院でそういう体験とかもできるのかというようなことも出てきたり、嶋原校長からは市教研のコンピュータ部会との連携ですとか、そういうようなものも図れないのかというような、具体的にバス云々というところも出てきているところがございます。こういう具体的などころを通しながら次回は教頭ですとか、教務主任ですとか、実際に授業を作っていく側の実務の先生方同士が集まってどんなことができるのか、具体的などころまで話が進められればと考えております。そういう会を一度年度内に設けて環境づくりにつなげたいと思っております。何よりも地元を支えていく人材の育成という視点で、いろいろなどころで連携をしながら進めて行きたいというところこの会が終わりましたので、継続して取組んでいきたいということでございます。

次に、登別市教育フォーラムの報告についてです。別冊で収録のものをお配りしていると思います。11月1日に市民会館で開催しました。学校運営協議会の委員の方ですとか、学校関係者ですとか、市民の方にも呼びかけて、80名弱の参加者を迎えてましてフォーラムを行なっております。ページを追いながら流れ等を説明したいと思っております。はじめ教育長からの挨拶と2ページにある私からの小中一貫型のコミュニティ・スクールというものを通して、地域とともにある学校づくりの体制づくりを進めていますというお話をさせていただいております。4ページの下にあるのが分かり易いと思いますが、地域と家庭と学校と目指す子ども像をきちんと共有して子どもの健やかや成長をと、その3本の矢の矢印が3ページにある矢印、小学校と中学校の矢印、ちょっとずれている矢印を一つ大きい矢印にして、小中一貫教育というところを通して今まで取組んでいるコミュニティ・スクールときちんと連合させながら進めていくという考え方でございます。そういう形を学校で進めているというのを地域の方々には理解していただく機会というふうに今回は捉えております。6ページは昨年度から先行的に実施している西陵中学校区からの実践発表と、その実践を受けながら保護者の方々がどのように捉えているのかというのが9ページ。佐藤副会長からお話を伺うという場面を作っております。11・12ページは実践発表で使った資料です。このあとのグループ協議の中でも12ページに示している幌別西地区の学校と

家庭で子ども達に習慣化させたい10項目というところ。このページがグループ協議の中でも話題に上っていましたので後で見ただけであればと思います。13ページは登別中学校区の実践発表で山岸先生のお話、16ページは運営協議会委員の成田さんからの話というような形でお話をいただいております。18・19ページは登別中学校区の実践発表の状況。20ページからは10のグループに分かれて話し合われた内容をまとめております。その話し合われた柱は2つありましたが、まず学校と家庭と地域がそれぞれの課題を認識し合って、3者が9年間で子ども達を育てていけばいいという2つの柱で話し合いをしています。課題の捉え方はグループごとで様々ですが、例えばスマホや携帯のことについて話し合ったグループもありますし、地域とのつながり方について話し合ったところもあります。また、9年間で子ども達をどう育てるといふところも、地域の実情もだして話し合っているものでございますので、統一した部分というのはあまりないというところもありますけれどもいろいろな角度からお話ししていただいたと考えております。それで各グループのことが書かれていますけれども討議が終わってグループ2つの先生に発表していただいたのが39ページにございます。例えばAグループの平石先生に発表していただいたのは、コーディネーターが5人いますが増員というのにも必要になってくるのではないかとという視点でお話しいただいております。或いは、Eグループからは地域の方、実際に保護者の方と会って話をして望んでいるところにきちんと支援したいというような、そういうような機会の充実というか、そういうような話もグループから出ていたと聞いております。40ページからは赤井委員にお話ししていただいた助言を掲載しております。特に41ページの後段のあたり、学校サイドの小中一貫のおさえと地域や家庭から見た小中一貫教育のおさえをきちんと持って子ども達の活動が目に見えるような活動として、多くの保護者や地域の方々にもつながっていくというところを大事にして活動していくべきだというお話をいただいていたたり、42ページの最後は地域はいい学校を育て、いい学校は地域をつくるという言葉でお話を閉めていただきました。43ページは安宅会長からの挨拶というところでフォーラムを終了しております。また、今後もいろいろな方々の意見をいただきながら、こういう機会を作って、皆さんで共通理解を持ってコミュニティ・スクールというものを進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○小野島学務主幹 次に登別市幼保小中連携協議会の取組について情報提供します。資料7ページをご覧ください。平成29年度登別市幼保小中連携協議会に係る取組についてです。これまで登別市では、全ての児童生徒の健全育成、望ましい学校生活の実現を目指し、子どもたちへの関わり方に連続性をもたせ、各機関・学校が連携した取組を進めてまいりました。とりわけ、次期学習指導要領では、小学校就学前から中学校、高等学校や大学までを見通した長期スパンでの円滑で質の高い学校間接続の重要性が示されており、本市では平成23年度から始めた関係者懇談会を土台に、平成25年度の本協議会の立ち上げから先進的に取り組んでおります。今年度は、6月に私が市内私立幼稚園を回り、子どもたちの活動の視察及び各園長と今年度の取組に係る事前協議を行い、第一段階として幼稚園から小学校、小学校から幼稚園という相互参観の流れを整え全校が実施しました。市の子育てグループとも連携し市内保育所とも同様に可能な限り学校参観をしていただきました。これを基に7月末、小中学校長・幼稚園長・保育所長等の関係者による1回目の連携協議会を開催し、会の目的や意義、今年度の取組について再確認し、実施しました相互参観や交流の様子と合わせ協議を深めました。この後も相互参観を継続し過日11月8日（水）に2回目の連携協議会を開催し、ここでは各学校の担任の先生等実務者による実態交流を行いました。多忙な学校現場にあって先生方が一堂に会し、指導の実際や子どもの様子について交流する機会の設定は、参加した先生方から「とても有意義であった」「幼稚園での指導のねらいが理解できたので、1年生の指導につなげたい」といった多くの肯定的な意見がありました。こうした指導者側の交流機会の増加が子どもたちの円滑な学びや生活につながっていくことを、相互参観や対話の継続により先生方自身の実感として理解が進んできております。今後も参観や交流を継続することで、効果をさらに多くの先生方で共有していきたいと考えております。以上でございます。

○安部社会教育グループ総括主幹 社会教育グループからは平成28年度生涯学習事業実績と点検評価について情報提供いたします。資料は別冊になっております。平成28年度の生涯学習事業につきましては新たに策定しました第5次社会教育中期計画に基づき実施をしておりますので、この中期計画の項目ごとに主要な事業について点検評価を行い今後の方向性を示しております。詳細につきましては別途ご確認いただきたいと思います。14ページで学識経験者からの意見評価としまして社会教育委員の川島委員長と学校支援地域本部の畑山委員長にまとめていただいて

おります。その中では概ね順調に取組がされたものという評価をいただいておりますが、個別の事業単位では改善も必要であるという指摘も受けておりますので、この点検結果を踏まえまして今後の事業実施に取組んでまいりたいというふうに考えております。以上です。

○**武田教育長** 情報提供案件5件の説明がありましたが、他にありませんか。

(「ありません」の声あり)

○**武田教育長** それでは5件についてご質疑があればお受けしたいと思います。

○**赤井委員** 教育ふれあいウイークの参加者ですけども、これを見ても分かるように地域の方の参加。コミュニティ・スクールというのを進めているうえでどんな形の授業参観がいいのかなということを、今まではただ授業を見せて開かれた学校というのが重点的にあったが、コミュニティ・スクールを標榜している市としてはどんな形がいいのかなと思っています。そして、今年は学校に入ったときにアンケートが目につきました。校長先生に聞いたら去年もやっていたということをおっしゃったのですが、ただアンケートも何かあれば書いてくださいということだけではなくて、もっと授業の中身に沿った課題の在り方というか、アンケートというのは公開授業ではよく先生方には書いてもらいますが、地域の方というのは子どももいないし、孫がいる方もおりますが、授業参観というのは親は自分の子どもだけしか見ていない部分があって、だから授業の見方をアンケートに書いてもらうとか、丸を付けてもらうとかの工夫があれば授業を見ても地域の人として、コミュニティ・スクールとしていい方法が、例えば一つの学年に絞って1組・2組が同じ授業を行いますよね。その時に授業の取り上げ方がどうかとか、課題の与え方がどうかはあくまでたとえですが、何か視点がもたれれば地域の人も行ってみれる。学校全体のことで、アンケートの項目が合ったらどうかとか、そんなことがあればもっと行きやすいとか、行ってきたなという考えを持って帰れると思います。そんなようなところがふれあいウイークで地域の人を増やす方法でないかと考えます。ちょっと難しいですが。

○**野崎参与** 学校もいろいろ工夫して、こういう狙いで授業をしているみたいな案内の部分で、是非この部分を見てくださというような工夫はしていないと自分とかかわりのない子どもが通っているところに行くのかといったところでは、こう

いうのをやっているのだったら行ってみようというものが無ければ難しいところがあるのかなというところが一つと、まずは足を運んでみてもらえればこんなに学校ががんばっていることが伝わるといのも一つ狙いで、例えば若草小学校とかは畑の先生と一緒にできたジャガイモを食べたり、畑の先生にお礼を言ったりする場面をつくったりします。それを保護者の方々が見てこの人たちにやってもらっているのだということ認識します。外部の方に講師になっていただく授業をつくっていただいて、例えばマクドナルドのドナルドが来て小学校2年生にこんなふうを食べるとかバランスの良い食事が大事だということをしてもらおうと、それを親が聞いて親も一緒に認識してもらおう場面をつくったり、結構学校としては工夫をしているところです。でもその狙いをもっと委員がおっしゃるようにはっきり示しながら理解していただくという工夫はこれからも学校には行っていってもらおうように働きかけようと思います。

○武田教育長 特にうちは土曜授業を使って各学校がやるだけに単に授業参観ではなくて、学校の特色を前面に出しながらフリーな中でやっていく考え方で今のよう工夫が出てきていると思うので、そういう意味ではアンケートでもそういうところに誘導していくようなアンケートが沢山あると思うので、設定の仕方によっては必要なことだと思いますのでさらに検討していくようにしたいと思います。他に何かございませんでしょうか。

○赤井委員 キャリア教育についてなかなか聞きなれない言葉というか。私のイメージとしては職業教育ということで小学校であればほとんど関係ないというかそういうつもりでいたのですが、小・中・高・大というか、連携は進んできていると感じます。それで都市教委連に行ったときに名寄市の大学が小中と関連性を持って進めているという報告がありました。登別にも専門学校があるので、そういう点でいうと何らかの形で、最近外国からも来ている人がいるということがあって、いろんな形での取り入れ方というか、連携の在り方を探れるので素晴らしい取り組みだと思って今後期待したいと思います。

○武田教育長 登別の場合は工学院という様々な職業の最終の窓口になる専門学校で直接紹介をしたり、就職をした人がダメになって帰ってきたらさらにそれを受けるとか、様々なケースがあるのでそういうところに特性を生かしながら結びつけて

いければいいと、単なる職業教育というよりも職業が生きる力、或いはふるさとを守っていくというような人材育成の視点からも小・中・高とつないでいって、そこにどう工学院と結びつけながら展開できるかというようなどころが必要でないかというのでチャレンジしてみました。この後具体的には、中学校がやっている事業者訪問と高校がやる事業者訪問が重なっていたり、高校の先生がここまで中学校でやっているのですかというような驚きがあったようですから、そういうことを効率よくやって、そしてより速くより広く子ども達が身に付けていければという環境づくりをしたいということで取組んでいます。今度は実務的なところに入っていくと考えています。

○野崎参与 青嶺高校の先生とお話したときも、青嶺高校に通っている生徒の多くはやはり地元を考えているということと、この地区には専門学校があって充実していることを考えれば小学校の時からその視点を持って、小学校の先生も中学校の先生も視点を持ってキャリア教育を進めていくということは大事だというふうに考えたので、そういう意味を含めてこの機会をうまく使っていきたいと思います。

○武田教育長 他にございませんか。

○堅田委員 幼保小中連携協議会ですが、ある幼稚園なんかはヨコミネ式という特殊な保育方法をやっています。それぞれ保育所と幼稚園で方針があると思いますので、そこにギャップがあったりするらしいので、その辺はこの協議会とかですり合わせを少ししていただくと、1年生に入っているいろんなところから混ざり合った時の受け入れる先生の対策ができるのかなと。より情報交換していただきたいと思います。

○小野島主幹 実際に協議会の実務者会議の中でもそういう話は出ていまして、幼稚園の先生たちの中でもその幼稚園によって先生たちに温度差があります。実際に小学校に入学した後のことを心配されて、小学校の先生たちももちろんそうですし、幼稚園の先生たちもそうでしたので、実際に入学後にいろんな特色ある教育を受けているんな子が入ってきても集団の中でやっていく中である程度平準化されていくこともあるという話も出ていましたので、なかなか突っ込みにくいところもありますが、そういう教育がされているという認識はありますので、今後こういう連携を進めていく中で、具体的に話が進むのかなと思います。

○**堅田委員** 保護者の意見を聞く限りでは、幼稚園の時にできたものが小学校に入
ってできなくなってくるから勿体ないという話があります。そこを継続制というか
折角できていたものはそのまま維持してもらいたいという意見は耳にしますので。

○**武田教育長** その差がほかのケースよりも大きいように聞いています。結果的に
は幼稚園教育要領と保育所の指針がそれぞれ整理されています。それで幼稚園と保
育所の両方を扱っているところはある程度指導というかレベルを合わせていけるの
ですが、通常は幼稚園と保育所が別々に行われていて、その中で幼稚園がさらに特
色ある教育をするということでもますます開きがあると。それで、これから市の方で
できるだけ民間に保育所はお願いしたり、或いは認定子ども園、そういう一緒にな
る施設づくりを進めたいという方針を持っていますので、そこも合わせて今の幼保
小中連携の中で話し合いをしながら、スムーズな連携の中にはその差をどういふ
うに埋めていくかというようなところも、理解し合うために、そういうこともある
と思いますので、何回か重ねながら課題を検討して取組んでいきたいと思ひます。

○**野崎参与** 連携協議会の中で実際に先生方の話とかを聞いて、例えば保育所の先
生もどこまで言葉とかも教えたらいいのでしょうかとか。そのようなことも具体的
に小学校の先生に聞いていたりとか、この状態で子どもを送り出していいのでしょ
うかという不安を持っている先生も出てくると思ひますが、小学校の先生方がおっ
しゃっていたのは言葉に対してだとか、運動に対してだとか、苦手意識を持ったり
とか、マイナスのイメージを持たせてしまうとなかなか小学校に入ってからそこを
伸ばしていけなくなるので、どこまでというところもあるのかもしれないけれど、
少しでも子どもたちが頑張ろうという気持ちだったり、面白いと興味湧く段階の
ところを一番大事にしてほしいのですというような話もしていました。具体になっ
ていくのかもしれないですけど一番大事にしていかなければならないのは意欲の面
ですとか、素地の面がどういうところなのだとすることが大事なところだと。そこ
をきちっとつなぎ合わせることをしっかりしていかなければならないと思ひます。

○**武田教育長** よろしいでしょうか。

○**堅田委員** はい。

○**武田教育長** その他ありましたら。

○**垣内委員** ふれあいウイークですが、先ほど若草小学校で家庭菜園の方々に感謝

と、又それを保護者も情報を共有できるというような授業をしているということもお話されましたけども、折角地域の皆さんや保護者の皆さんが集まっていただけるような日には、そのような授業になるべく特化していただけると来校者も多くなるし、又私の立場でいうと消費者教育ですとかスマホの問題だとか、地域の方にも保護者の方にも一緒に考えていただきたい。子どもだけの授業ではなくてそういうようなテーマを扱うと一緒に考え、それを家庭に持ち帰って考えていただけるようになるということの期待を含めてそういう授業を積極的に取り入れていただければありがたいと思っています。

○野崎参与 スマホの講習会のような形、一緒に子どもと見てもらうとか、保護者向けのものを用意している学校もあったり、そういうようなところも工夫していただいています。なかなか場を設けても広がっていかないという課題もあります。

○垣内委員 いま何かというとスマホの問題を一番テーマとして取り上げやすい問題になっています。でも他にもたくさんテーマはあると思います。人間一生を生きていくうえでどういうことが大事なことなのかということのテーマの授業も大切なのかと思います。それは外部の講師を依頼してということでも違う角度から授業が進められても面白い授業になると思っています。

○野崎参与 例えば薬物乱用の授業をしたり、認知症キツサポーターの講座を当てたり、登別中学校では教頭先生がご自身の体験を語られていのちの授業をしていただいたりですとか、又道徳を公開しているとか、いろいろなことを工夫していただいています。その発信というか、そういう取組をしているということを知っていただく工夫というか、そうしないと結局学校がやっていることも学校だけで完結してしまいます。その辺りやはり工夫だと考えております。

○武田教育長 その他ありますでしょうか。

(「ありません」の声あり)

○武田教育長 それでは終了したいと思います。最後に12月の教育委員会の開催日について予定したいと思います。次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

○橋場次長 12月の教育委員会につきましては、12月21日木曜日でお願いしたいと思いますと考えております。

○武田教育長 事務局よりご提案のありました12月21日木曜日で皆様のご都合は如何でしょうか。

(「大丈夫です」の声あり)

○武田教育長 それでは、12月の定例の教育委員会につきましては、12月21日木曜日16時30分から市民会館小会議室で決定とさせていただきます。

詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。